

先生方のご紹介

堀井 令以知 (ほりい れいいち) 先生

ご略歴 1925年生まれ。京都大学大学院特別研究生修了。愛知大学、南山大学教授を経て、現在関西外国語大学教授。

主なご業績 『語源大辞典』(東京堂出版 1988), 『語源をつきとめる』(講談社 1990), 『外来語語源辞典』(東京堂出版 1994), 『感性の言語学』(近代文藝社 1996), 『比較言語学を学ぶ人のために』(世界思想社 1997), 『ことばの不思議』(おうふう 1998), 『ことばの由来』(岩波新書 2005) 他多数。



山口 巖 (やまぐち いわお) 先生

ご略歴 1934年生まれ。京都大学大学院修了。京都大学教授, 鳥取環境大学教授を経て, 現在京都大学名誉教授。

主なご業績 『ロシア中世文法史』(名古屋大学出版会 1991), 『類型学序説: ロシア・ソヴェト言語研究の貢献』(京都: 京都大学学術出版会 1995), 『パロールの復権: ロシア・フォルマリズムからプラーグ言語美学へ』(ゆまに書房 1999), 『ことばの構造とことばの論理: 山口 巖教授停年記念論文集』(日本古代ロシア研究会 1998), 『ロシア文法の周辺: 一般言語学への招待』(日本古代ロシア研究会 2005) 他多数。



下宮 忠雄 (しもみや ただお) 先生

ご略歴 1935年生まれ。東京教育大学大学院修了。弘前大学助教授, 学習院大学教授を経て, 現在学習院大学名誉教授。

主なご業績 『バスク語入門』(大修館書店 1979), 『スタンダード英語語源辞典』(大修館書店 1989), 『ドイツ語語源小辞典』(同学社 1992), 『ノルウェー語四週間』(大学書林 1993), 『ドイツ・ゲルマン文献学小辞典』(同学社 1996), 『英語学文献解題 第1巻言語学I』(研究社 1998), 『歴史比較言語学入門』(開拓社 1999), 『古アイスランド語入門』(大学書林 2006), 『ゲルマン語対照辞典の試み』(大学書林 2007) 他多数。



吉岡 治郎 (よしおか じろう) 先生

ご略歴 1931年生まれ。関西学院大学大学院修了。帝塚山短期大学, 親和女子大学, 神戸女子薬科大学, 神戸海星女子学院大学教授を経て, 現在神戸海星女子学院大学名誉教授。大阪言語研究会では1970年の創設以来, 2007年まで世話人をお務めいただきました。

主なご業績 ボー・ケーブル『英語史』(共訳, 研究社 1981), 『中世英国ロマンス集』(共訳, I-IV 篠崎書店 1981, 1986, 1993, 2001)。英語以外の分野では, ギリシア語・ラテン語と対比しつつゴート語前置詞を精緻に研究され, またケルト諸語(ウェールズ語, コーンウォール語, マン島語)の中世文学作品等を精力的に注解・紹介なさっています。



The Indo-European Colloquium of Japan の系譜 (抄)

The Indo-European Colloquium of Japan という名称が用いられるようになったのは1988年(大阪言語研究会 第91回例会)からのことです。しかし、そもそもその発端は、1978年の秋、当時京都産業大学教授・国際言語科学研究所所長をお務めだった、わが国言語学界の巨人**泉井久之助**博士が、大阪言語研究会を主催する昵懇の**蛭沼寿雄**博士(当時関西学院大学教授)をお誘いになり、「**日本印欧学研究者専門会議**」(The Conference of Indo-Europeanists of Japan)を発起したことにあります(蛭沼寿雄「泉井久之助先生を偲ぶ」)。

泉井博士の情熱と献身的な努力によって1979年に結実したこの会議は計4回開催され、わが国の印欧語研究者が一堂に会して互いの研究成果を共有し、また交流を促す貴重な機会を現出しました。しかし、主催する泉井博士がご健康を害し、1983年5月28日に幽冥境を異にされたため、泉井博士の遺志を継いだ蛭沼博士が急遽**大阪言語研究会**の例会2回をもって同年の第5回会議に充て、翌1984年からは新設の**印欧学研究会**がこれを引き継ぎました。1986年の第3回を最後に蛭沼博士は印欧学研究会を離れ、翌年から大阪言語研究会の活動の一環として**印欧語学特別例会**(1987)が、次いで**The Indo-European Colloquium of Japan**(1988～)が開催されるに至っています。泉井・蛭沼両博士の情熱と努力の結晶たる本 Colloquium が生生発展するよう、同学の皆様のご協力をいただければ幸甚です。

泉井 久之助 (いずい ひさのすけ 1905-1983) 博士

ご略歴 京都帝国大学、大学院を経て京都大学教授、京都産業大学教授、日本言語学会会長等を歴任。文学博士。紫綬褒章。勳二等瑞宝章。
主なご業績 『言語学概説』(1933(筆者名 新村 出))、メイエ『史的言語学に於ける比較の方法』(1934)、トムセン『言語学史』(1937)、『ヴィルヘルム・フォン・フンボルト』(1938)、『言語の構造』(1939)、『言語学論攷』(1944)、『言語構造論』(1947)、『ラテン広文典』(1952)、『言語の研究』(1956)、『言語の構造』(1967)、『ヨーロッパの言語』(1968)、『印欧語における数の現象』(1978)等多数。詳しくは『泉井久之助博士著書論文目録』(泉井久之助先生生誕百年記念会 2005)等をご覧ください。



蛭沼 寿雄 (ひるぬま としお 1914-2001) 博士

ご略歴 東京帝国大学卒業。ハーバード大学で Joshua Whatmough 教授に師事。関西学院大学教授。文学博士。
主なご業績 『新約聖書の成立』(1950)、『新約外典概説』(1953)、J. H. モールトン『新約研究入門：パピルスと新約研究』(1953)、ホワットモー『言語：現代における総合的考察』(久野 暉氏と共訳 1960)、『新約本文批評』(1962)、『新約・古典ギリシヤ語の読み方』(1973)、『ホワットモー：その業績と言語理論』(1975)、『原典新約時代史：ギリシヤ、ローマ、エジプト、ユダヤの史料による』(1978)、『新約本文学史』(1987)、『ギリシヤ語新約語法』(1989)他多数。詳しくは『同道精進』(1994)等をご覧ください。



- ① 第1回 日本印欧学研究者専門会議 1979年6月25, 26日 於京都産業大学
あいさつ 村山七郎 (京都産業大学国際言語科学研究所所長)
経過報告 泉井久之助 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
印欧語民族と馬の飼育 岸本通夫 (大阪大学名誉教授)
古期ケルト語動詞の構造: 接中代名詞の使用について 土居敏雄 (豊橋技術科学大学)
シケル語について 蛭沼寿雄 (関西学院大学)
日本のイラン学 伊藤義教 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
Homerosにおける表現の formula と文的創造との関係 岡 道男 (京都大学)
母と父 風間喜代三 (東京大学)
一スラヴィストの見たギリシア語のアスペクト 木村彰一 (東京大学名誉教授)
能格: この不思議なるもの 下宮忠雄 (学習院大学)
韓国語系統研究の現況と問題点 金 芳漢 (ソウル大学)
リトアニアにおけるバルト・スラヴ両語の研究について 村田郁夫 (東京経済大学)
印欧祖語の子音組織 松本克己 (金沢大学)
Lingua Venetica の動詞形 泉井久之助 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
閉会のあいさつ 泉井久之助 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
- ② 第2回 日本印欧学研究者専門会議 1980年6月23, 24日 於京都堀川会館
会議担当者序言 泉井久之助 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
ホメロスの比喩の言語言語 岡 道男 (京都大学)
ゲルマン民族におけるパン 下宮忠雄 (学習院大学)
バルト語の中性形の衰退過程について 村田郁夫 (東京経済大学)
古代イタリア中東部の言語 蛭沼寿雄 (関西学院大学)
聖書のゴート語訳へのラテン語の影響 吉岡治郎 (神戸海星女子学院大学)
スラヴ語における非人称受動表現 山口 巖 (京都大学)
印欧語民族の王権 大久間慶四郎 (豊橋技術科学大学)
ケルト語の構造 土居敏雄 (豊橋技術科学大学)
Skr. (á-)bhū-t, Gr. (ἔ-)φύ[τ] について 泉井久之助 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
- ③ 第3回 日本印欧学研究者専門会議 1981年6月22, 23日 於京都堀川会館
英語方言における人称代名詞の印欧語的性格 岩本 忠 (京都産業大学)
ウェイルズ語における緩音の現象と語順: 動詞前虚辞の機能について 水谷 宏 (金城学院大学)
ギリシャ文学における女性の言語 松平千秋 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
スラヴ語における行為名詞 -nie について 山口 巖 (京都大学)
バルト語の名詞複数主格形 -ai をめぐって 村田郁夫 (東京経済大学)
印欧語における完了形とゲルマン語 泉井久之助 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
インド語史の一断面 風間喜代三 (東京大学)
印欧語族の Kinship 大久間慶四郎 (豊橋技術科学大学)
ラエト語 (Lingua Raetia) の性格 蛭沼寿雄 (関西学院大学)
- ④ 第4回 日本印欧学研究者専門会議 1982年6月21, 22日 於京都堀川会館
ケルト語 (Old Irish) における palatalization について 土居敏雄 (豊橋技術科学大学)
古代オリエントにおける Hittite 語 吉川 守 (広島大学)
ヒッタイト語と印欧語的動詞体系 泉井久之助 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)

バルト語の名詞属格形の問題	村田郁夫 (東京経済大学)
古代スラヴ語におけるいわゆる行為名詞 <i>-nie</i> と <i>-tie</i> について	山口 巖 (京都大学)
Pre-Indo-Europeans in Europe	大久間慶四郎 (豊橋技術科学大学)
ラテン語の家を意味する語について	堀井令以知 (関西外国語大学)
古代北イタリアのリグル語とレーポント語	蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)

泉井博士のご病氣と急逝により第 5 回日本印欧学研究者専門会議は中止されました。

- ⑤ 大阪言語研究会 第 69, 70 回例会 1983 年 8 月 29 日, 12 月 26 日 於なにわ会館
- 印欧語における不定形
- | | |
|--------------------|-------------------|
| ヴェーダ語, サンスクリットの不定形 | 松村 恒 (四天王寺国際仏教大学) |
| ギリシア語等の不定形 | 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授) |
- 印欧語における ego
- 中期インド・アリアン語の韻律再考: Gaṇacchandas の場合
- | | |
|--|-------------------|
| | 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授) |
| | 松村 恒 (四天王寺国際仏教大学) |
- ロシア語名詞の数のカテゴリーをめぐって
- | | |
|--|-------------|
| | 山口 巖 (京都大学) |
|--|-------------|
- ⑥ 第 1 回 印欧学研究会 1984 年 6 月 15, 16 日 於京都産業大学
- 挨拶
- | | |
|--|-----------------------------|
| | 矢島文夫 (京都産業大学国際言語科学研究所所長) |
| | 松平千秋 (議長, 京都大学名誉教授, 京都産業大学) |
- 泉井久之助先生と印欧学
- | | |
|--|-----------------|
| | 堀井令以知 (関西外国語大学) |
|--|-----------------|
- 印欧アナトリア語派におけるリュキア語の位置
- | | |
|--|-------------|
| | 松本克己 (筑波大学) |
|--|-------------|
- 象形文字ルウィ語の関係接続詞について
- | | |
|--|---------------|
| | 大城光正 (岡山理科大学) |
|--|---------------|
- 死をめぐる表現
- | | |
|--|--------------|
| | 風間喜代三 (東京大学) |
|--|--------------|
- 印欧語とセム語の比較: 学史的展望
- | | |
|--|---------------|
| | 矢島文夫 (京都産業大学) |
|--|---------------|
- ロマンス語起動活用の起源について
- | | |
|--|---------------|
| | 小林 標 (京都産業大学) |
|--|---------------|
- Venet. ekupeθaris
- | | |
|--|-------------------|
| | 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授) |
|--|-------------------|
- ⑦ 第 2 回 印欧学研究会 1985 年 11 月 15, 16 日 於京都産業大学
- 西洋古典学と私
- | | |
|--|---------------|
| | 松平千秋 (京都産業大学) |
|--|---------------|
- 現代ギリシア語事始め
- | | |
|--|-----------------|
| | 関本 至 (広島文教女子大学) |
|--|-----------------|
- 以上司会 木村彰一 (東京大学名誉教授)
- ミノア文字研究の現状: 特に線文字 A を中心に
- | | |
|--|-------------|
| | 松本克己 (筑波大学) |
|--|-------------|
- オスク語 *eituns-* 構文
- | | |
|--|-------------------|
| | 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授) |
|--|-------------------|
- 以上司会 風間喜代三 (東京大学)
- シンポジウム「ギリシア・ローマの詩と言語」
- 基調報告者
- | |
|---|
| 小川正広 (京都産業大学), 片山英男 (東京大学), 逸見喜一郎 (成城大学), 小林 標 (京都産業大学) |
|---|
- コメンテーター
- | |
|--------------------------|
| 岡 道男 (京都大学), 中山恒夫 (大阪大学) |
|--------------------------|
- 司会
- | |
|-------------|
| 橋本隆夫 (神戸大学) |
|-------------|
- 発言者
- | |
|--|
| 松平千秋 (京都産業大学), 川島重成 (国際基督教大学), 松本克己 (筑波大学), 中務哲郎 (京都産業大学), 木村彰一 (東京大学名誉教授) |
|--|
- ⑧ 第 3 回 印欧学研究会 1986 年 10 月 4, 5 日 於京都産業大学
- インド・イラン語派と印欧語研究 (特別講演)
- | | |
|--|--------------|
| | 風間喜代三 (東京大学) |
|--|--------------|

中期イラン語におけるサカ語の位置について	熊本 裕 (四天王寺国際仏教大学)
中世イラン語と中古漢語	吉田 豊 (四天王寺国際仏教大学)
ドラヴィダ語とインド=アリア語の相互影響	内田紀彦 (園田女子大学)
インドの天文学書に見られるギリシア語からの借用語について	矢野道男 (京都産業大学)
シグマによる印欧語の未来形成の問題について	吉田和彦 (京都大学)
象形文字ルウィー語 <i>apa/api</i> について	大城光正 (京都産業大学)
カタロニア語の起動動詞	小林 標 (京都産業大学)
イタリック語派の問題 (特別講演)	蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)
-r のゆくえ (アイルランド語の受け身)	土居敏雄 (豊橋技術科学大学)
英語におけるウムラウト	岩本 忠 (京都産業大学)

以降、蛭沼博士は印欧学研究会の運営から離れ、泉井博士が創設した日本印欧学研究者専門会議の伝統は蛭沼博士の主催する大阪言語研究会に受け継がれました。

- ⑨ 大阪言語研究会 第87回例会 (印欧語学特別例会) 1987年12月26日 於なにわ会館
ルウィー語と印欧語研究 大城光正 (京都産業大学)
印欧語の序数：ゴール語に関連して 蛭沼寿雄 (関西学院大名誉教授)
- ⑩ 大阪言語研究会 第91回例会 (The 10th Indo-European Colloquium of Japan)
1988年10月26日 於なにわ会館
印欧語族の文化について 風間喜代三 (東京大学)
ヒットイト語の動詞体系とその起源をめぐって 吉田和彦 (京都大学)
印欧語における能格性の問題 松本克己 (筑波大学)
英語動詞における印欧語的性格 岩本 忠 (京都産業大学)
バナサクの碑文について 土居敏雄 (豊橋技術科学大学)
アナトリア諸語における代名詞の形成について 大城光正 (京都産業大学)
ヴェネト語 kv 蛭沼寿雄 (関西学院大名誉教授)
- ⑪ 大阪言語研究会 第96回例会 (The 11th Indo-European Colloquium of Japan)
1989年10月7日 於なにわ会館
ヴェネト語 kv 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)
ノヴゴロド第一年代記における完了時称 山口 巖 (京都大学)
バルト語のアクセントと形態について 村田郁夫 (東京経済大学)
「子供」または「息子」を意味する象形文字ルウィー語について 大城光正 (京都産業大学)
言語と文化：バナサク碑文をめぐって 土居敏雄 (豊橋技術科学大学)
- ⑫ 大阪言語研究会 第100回例会 (The 12th Indo-European Colloquium of Japan)
1990年9月29,30日 於なにわ会館
The Position of Germanic among the Indo-European Languages Prof. Edgar C. Polomé (Univ. of Texas at Austin)
Europe as a Linguistic Area Prof. Katsumi Matsumoto (Tsukuba Univ.)
Hospitality, Honour-Price and the Fatal Feast in Ancient Irish Law-tract
— a Sequel to the Inscription of Banassac Prof. Toshio Doi (Nagoya Women's College)
Leponitic *pala* Prof. Emer. Toshio Hirunuma (Kwansei Gakuin Univ.)

⑬ 大阪言語研究会 第104回例会 (The 13th Indo-European Colloquium of Japan)

1991年9月22日 於なにわ会館

- 英語方言にみる古期英語語形 岩本 忠 (京都産業大学)
後期パーリ語におけるシンハラ語的要素 松村 恒 (親和女子大学)
古プロシア語『標準化』の試み：テキストの特殊事情から 井上幸和 (神戸市外国語大学)
コータン語の音韻 熊本 裕 (東京大学)
sudpiceno 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)

⑭ 大阪言語研究会 第108回例会 (The 14th Indo-European Colloquium of Japan)

1992年10月4日 於なにわ会館

- Kaluza's Law について 鈴木誠一 (広島大学)
海の民族と印欧語族 大久間慶四郎 (豊橋技術科学大学)
三省堂『言語学大辞典』の編纂にあたって 千野栄一 (東京外国語大学名誉教授)
古代スラブ語研究の過去と現在 千野栄一 (東京外国語大学名誉教授)
スペイン・西ゴート法典 Forum Judic, 681年とスペイン語法典 Fuero Juzgo, 1254年 近松洋男 (天理大学)

⑮ 大阪言語研究会 第112回例会 (The 15th Indo-European Colloquium of Japan)

1993年9月19日 於なにわ会館

- 英語の時の表現体系 山下美津子 (京都教育大学)
チェコ語動詞の態体系：機能論的アプローチ 本城二郎 (岡崎女子短期大学)
所有者の表現について 藤村逸子 (名古屋大学)
フランス語の日常言語に隠された失礼さ 西村淳子 (名城大学)
新約ギリシア語における動詞前接辞について 山本伸也 (聖和大学)
古ピカルディー方言の統語論的特徴 林田節子 (関西学院大学)
ラトヴィア語における英語語彙：Baldunčiksの辞書を資料として 田中研治 (神戸女子薬科大学)

⑯ 大阪言語研究会 第116回例会 (The 16th Indo-European Colloquium of Japan)

1994年10月2日 於なにわ会館

- イングランド方言における摩擦音の交替 石原田正廣 (四天王寺国際仏教大学)
バルト・スラヴ語アクセント法の史的法則 柳沢民雄 (名古屋大学)
Matronae 信仰をめぐる言語的諸問題 相京邦宏 (豊橋技術科学大学)
アショーカ王刻文の言語と本文批判 松村 恒 (親和女子大学)

蛭沼博士のご病氣とご逝去 (2001年) 等により1995年から中断。

⑰ 大阪言語研究会 第163回例会 (The 17th Indo-European Colloquium of Japan)

2008年12月27日 於待兼山会館 (大阪大学)

- 開会の辞 堀井令以知 (関西外国語大学教授)
一般言語学と内容的類型学 山口 巖 (京都大学名誉教授)
hic-iste-ille (付：泉井久之助先生の人と業績) 下宮忠雄 (学習院大学名誉教授)
閉会の辞 吉岡治郎 (神戸海星女子学院大学名誉教授)

2008年12月27日 現世話人 神山孝夫 記 (敬称略)